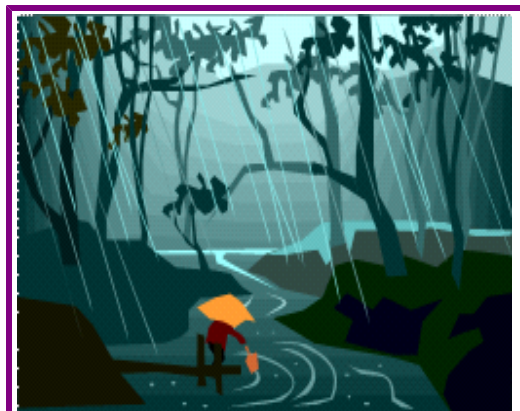


めぐみイエス・キリスト教会

2019年7月14日(日)第二主日礼拝
週報「通算第464号」



(梅雨は何時まで?)

2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年7月14日 第二主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌444「屈するなかれ」 p. 716
- 【交読文】 No.38 詩篇第121篇 p. 910
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌21 「輝く日を仰ぐとき」 p. 28
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.4「天には救いの喜び」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章15節～24節
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《第一回宗教裁判》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書18章15節～24節】(新約p.199)

●ポイント1. 大祭司の知り合いとは？

※マルコの福音書1章19節～20節「ガリラヤ湖畔において」 (新約p.59)

1:19 また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。

1:20 すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスについて行った。

※ルカの福音書1章5節～7節「祭司ザカリヤと妻エリサベツ」(新約p.96)

1:5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。

1:6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行なっていた。

1:7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。

※ルカの福音書1章36節～37節「天使ガブリエルの言葉から」(新約p.97)

1:36 「ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

※ルカの福音書2章41節「十二才のイエス様と共に巡礼に」(新約p.101)

さて、イエスの両親は、過越の祭りには毎年エルサレムに行った。

※ヨハネの福音書19章25節「主イエス様の母と母の姉妹」(新約p.202)

19:25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

※マタイの福音書「ゼベタイの子らの母がいた。(27:56)」

※マルコの福音書「またサロメもいた。(15:40)」

●ポイント2. 大祭司アンナスの質問と主イエス様の答えから

●ポイント3. シモン・ペテロにおける最初の主イエス様の否定

※マルコの福音書14章66節～68節「大祭司の女中のひとり」(新約p.91)

14:66 ペテロが下の庭にいと、大祭司の女中のひとりが来て、

14:67 ペテロが火にあたっているのを見かけ、彼をじっと見つめて、言った。「あなたも、あのナザレ人、あのイエスと一緒にいましたね。」

14:68 しかし、ペテロはそれを打ち消して、「何を言っているのか、わからない。見当もつかない。」と言って、出口のほうへと出て行った。

◎先週のメッセージの概要【大祭司のもとへ】

《さて、この場面には二人の大祭司が登場します。まずアンナスですが、紀元6年、人口調査を行なったシリア総督クレニオによって大祭司に任命され、紀元15年までその地位にいました。ローマ帝国は彼を退位させ、別の人物を立てますが、ユダヤでは、大祭司職は終生のものであり、また世襲制であったのです。よって紀元18年、婿カヤパが大祭司となります。カヤパは、紀元36年シリア総督ヴィテリウスによって解任されるまでその職にありました。しかしアンナスが、事実上の大祭司であって、当時の最高指導者だったのです。

洗礼者ヨハネが出現した時も、イエス様の公生涯全期間においても、ユダヤの事実上の指導者は、アンナスでした。『アンナスとカヤパが大祭司であった頃、神の言葉が、ザカリヤの子ヨハネに下った。』と書かれている通りです。

またカヤパは、「ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である。」と議会において、助言しました。しかしヨハネは、「このことは彼が自分から言ったのではなくて、その年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、また散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである」と、後に解釈を付け加えています。ここからも、アンナスとカヤパは、神様によって選ばれ、神様の不思議な摂理の中において、その当時の大祭司に任命されたことが分かります。

この場面において、大祭司アンナスとカヤパと、神の御子なるイエス様とが、対峙することになります。これは律法の終わりを意味し、大祭司職がアンナスとカヤパから、永遠の大祭司、主イエス様へと移ることになるしるしです。

『彼らの場合は、死ということがあるため、務めにいつまでもとどまることができず、大ぜいの者が祭司となりました。しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わる事のない祭司の務めを持っています。従って、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らの為に、取りなしをしておられるからです。』と、ヘブル書の著者は、主イエス様の成された尊い御わざについて述べています。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は7月21日です。そして次回「聖書の学びと祈り会」は、7月17日(水)に行ないます。また7月24日(水)の祈り会は、鈴木牧師が神学校リトリート(7月22日(月)～24日(水)2泊3日)に参加しますのでお休みとなります。